

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	22136
課題名	腹膜中皮腫の臨床病理学的解析
研究期間	（倫理委員会承認日） ～ 2026年 3月 31日
研究の対象	2003年1月～2022年7月までに当院で病理検査の結果、腹膜中皮腫あるいはその疑いと診断された方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、既往歴、併存疾患（癌、胸膜・腹膜病変）、治療歴および当院における治療経過、家族歴、職務歴（特にアスベスト暴露の可能性や程度に関する情報）、手術日等、腫瘍マーカーなどの検査所見、画像検査所見、病理学的所見） <input checked="" type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：腹膜・腸間膜などの病理組織検体） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	旭川医科大学 学長 西川 祐司
外部への試料・情報提供	<input checked="" type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先： ）（提供方法： ） <input type="checkbox"/> その他（提供先： ）（提供方法： ） <input type="checkbox"/> 第三者への提供予定日（提供開始日 年 月 日）
研究組織	○研究代表機関：研究代表者 旭川医科大学病院 病理部・病理診断科 教授 谷野 美智枝 ○共同研究機関 兵庫医科大学 病理学講座 分子病理部門 主任教授 辻村 亨 東京女子医科大学 八千代医療センター 病理診断科 廣島 健三 北海道大学病院 病理部・病理診断科 教授 松野 吉宏 北海道中央労災病院 病理診断科 岡本 賢三
研究の意義、目的	腹膜中皮腫は腹部を広く覆っている腹膜からできるとも稀な腫瘍です。およそ半分の患者さんが1年以内にお亡くなりになっており、日本国内で年間120人ほどがお亡くなりになっています。診断のためには臓器の一部を採取して顕微鏡で観察すること（生検）が必要ですが、診断が大変難しく、免疫染色とよばれる中皮あるいは中皮腫に特徴的な細胞の成分を検出する方法が必要とな

	<p>ります。腹膜中皮腫と似たような病気に胸膜中皮腫があり、こちらには免疫染色がどれくらい診断に役立つ（有用）かという研究がありますが、腹膜中皮腫はその稀さゆえ、十分な研究が行われていません。また、胸膜中皮腫では顕微鏡で観察したときにわかる、がんの質の悪さを高/低の 2 つに分ける「組織学的グレード」により余命を予測することができるという報告があります。一方、腹膜中皮腫では「組織学的グレード」が余命を予測するかどうか、世界中の研究者の中で意見が分かれています。そこでこの研究では、免疫染色の有用性や、「組織学的グレード」と余命の関係を検討し、腹膜中皮腫の診断精度の向上とより正確な余命予測ができるようになることを目的としています。</p>
研究の方法	<p>既に診断された標本（手術などで採取された身体の一部を顕微鏡などで観察できるように加工したもの）を顕微鏡で観察します。また、免疫染色について、行われていないものがありかつ、採取された臓器が残っていれば新たに標本を作成し、顕微鏡で観察します。日常の診療への影響や患者さんへの新たなご負担はありません。</p>
その他	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 旭川医科大学病院 病理部・病理診断科 教授 谷野 美智枝（研究責任者） 〒078-8510 旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号 電話 0166-69-3392</p> <p>研究代表者： 旭川医科大学病院 病理部・病理診断科 教授 谷野 美智枝</p>